



INDEX

3 V3達成「健康経営優良法人」全会員企業認定

4 TOPICS

令和8年度拓伸会入社式/製鐵の受変電設備更新工事起工式/製鐵と商事が「がんじゅうさびら表彰」準グランプリ/西原GC「ゴルフを通してPDCAを学ぶ研修」開発/薩南で初の職長安全衛生教育/本社が八重瀬町から感謝状贈呈 etc.

10 拓南余話

【若夏】初夏。稲穂の出る時節をいうことば。初夏をナツグチともいう。『沖繩大百科事典』(沖繩タイムズ社)より

拓伸会会報(隔月発行)

〒900-0025

沖繩県那覇市壺川3の2の4 [拓南ビル3F]

拓南本社内『たくしんNEWS』編集委員会

TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586

マーケティング推進室を軸に 情報の共有化・連携強化を

令和8年度経営計画発表会 拓伸会



古波津昇会長の発表を聞く各社の役員・管理職(拓南製鐵2階大会議室)

拓伸会の令和8年度経営計画発表会が4月11日、拓南製鐵本社2階大会議室で開かれ、8社の代表が発表した。会員企業の課長以上約100人が出席し、主任から課長代理までの管理職はオンラインで参加した。古波津昇会長は発表の中で「新たにマーケティング推進室を設置した。今後、技術関連の集約も検討していく。各社の商品・サービス・知識・技術をグループ全体で理解・共有し、域内連携はもちろんだ、大阪・福岡・鹿児島の本土拠点とも有機的に結んで発展に努めよう」と呼びかけた。

発表会は、会員企業代表の発表を通して、各社の展望や課題について共通認識を持ち、連携意識を高めるのが目的。席上、拓伸会の小湾正博副会長がまず、開会のあいさ

『備えに勝る対策なし』

各社の発表後、古波津昇会長が「総括」した。県経済界が進める「ゲートウェイ2050プロジェクト、経済安全保障、安全衛生活動の大切さ、100年企業に向けた思いなどにも触れ、多岐にわたる内容となった。

その中で、古波津会長は、業界をめぐむ状況について「鉄鋼の需要は、沖繩に限らず全国的に減少している。それを埋めるために、商品づくりやサービスの提供をしつ

たは知恵と努力で乗り切ってきた。この発表会に参加している皆さんは、いままさに、目の前の困難に立ち向かう責任があると思う。さらなる合理化を図る改善活動が求められる。安全衛生活動も含めて皆さん全員が一致協力し、困難を乗り越えて、拓伸会を発展させてほしい。有意義な発表会になることを期待している」

発表は、拓南商事、拓南製鐵、拓南製作所、西原グリーンセンター、薩南物産、拓伸商事(大阪)、拓伸商事(福岡)、拓南本社(総括)を含むの順で行われた。発表内容のダイジェスト(発表会用資料)は1~4頁に掲載。

また、「世界情勢は何が起きるか分からない状況だ。どのような事態になってもみんな知恵を出し合い、いまなにすべきか、どのように事業を進めていくかが問われる。創業者は備えに勝る対策なし」というスローガンを遺したが、いままさにそういうときではないか」と述べた。

経営資源を最適化し 経営基盤の強化

拓南本社 代表取締役社長 古波津 昇

令和8年度方針

昨年の異常気象や多発する事故、そして年明けに勃発した紛争により、世界情勢は目まぐるしく変化しています。そして懸念されていたインフレが世界を襲う心配が高まってきました。

沖繩においては観光入域が順調に推移する一方、違法薬物の蔓延や特殊詐欺の横行、多発する海難事故や火災の頻発など懸念事項も多く、

人口減少や働き手不足に加え金利の上昇など課題も山積みとなっております。私ども拓伸会としては「技術開発研究室」で行っている新しい技術や製品開発を共有し、新たに「マーケティング推進室」を設置し、グループで持っている商品やサービス、知識を全体で理解・共有し、域内連携として大阪、福岡、鹿児島と沖繩を

《1頁より》
令和8年度方針

総合力を発揮し市場開拓に全力を尽くす

拓南製鐵 代表取締役社長 八木 実



昨年(令和7年)は全国的に気候変動が原因と思われる現象により、猛暑や集中豪雨による自然災害や熱中症などの人的被害が多発しました。地球温暖化が問題となる中、拓南製鐵としては脱炭素社会の実現のため、非化石燃料電力鋼材への取り組みを拓南グループで連携し、社用車にEV車やPHEV車導入、また沖電グループ「かりーるーふ」の採用などBCP(事業継続計画)対策の一環として、日常業務の中でできることから実施に向けて進めています。全国的にも建設業界を取

り、猛暑や集中豪雨による自然災害や熱中症などの人的被害が多発しました。地球温暖化が問題となる中、拓南製鐵としては脱炭素社会の実現のため、非化石燃料電力鋼材への取り組みを拓南グループで連携し、社用車にEV車やPHEV車導入、また沖電グループ「かりーるーふ」の採用などBCP(事業継続計画)対策の一環として、日常業務の中でできることから実施に向けて進めています。全国的にも建設業界を取

り巻く環境は厳しく、働き方改革に伴う建設業の残業規制で労働力減少と人手不足の影響が大きく、建設関連業者は受注調整や工期延長を余儀なくされ、建設用鋼材の需要の減少が長期化、また、中国の鋼材受給バランス悪化によるデフレ輸出の影響等もあり生産数量が低迷しました。

令和8年度は不透明な状況の中、縮小が予想される鉄筋市場において危機意識の徹底で拓南製鐵の主力商品の鉄筋の従来市場を死守すること、さらに拓南グループ総力を挙げて市場開拓を強化します。従来は顧客から引き合いがあった時点からの営業開始でしたが、グループ横断的にマーケティング推進を立ち上げ、情報の共有化・連携強化で案件の計画段階・予算化等の物件情報や解体工事情報から入札前に発注者・設計事務所拓南グループ製品・サービス等のト

令和8年度方針

資源循環を軸に、現状を見極め解決

拓南商事 代表取締役社長 川上 哲史



米国トランプ政権の関税政策、地球温暖化対策に関する

国際環境枠組みからの離脱、中東情勢の不安定化、中国経済の低迷など、世界経済には多くの不安定要因が顕在化しており、全体として減速傾向がみられます。これらは世界の安全保障、経済、環境問題に大きな影響を及ぼすことが予想されます。鉄スクラップ市況については、国内発生量の低調さや円安基調の継続を背景に高値水準を維持しており、銅スクラップについても歴史的な高値圏で推移しております。

一方、当社が属する鉄スクラップ業界においては、法律やルールを遵守しない「不適正ヤード」の存在や金属盗難の増加といった課題に対し、行政による規制強化や対策が進められております。

拓南商事は昨年度、顧客サービス向上および業務の円滑化を目的として、フリーアドレスに対応した新オフィスを完成させました。また、年度方針「人材を強化し域内循環を全うする」のもと、沖縄本島及び離島地域における鉄原料県外出荷業者へ

タル提案で積極的に攻めの営業を展開します。

今年、拓南製鐵は創業70周年を迎えます。創業者や先輩方への畏敬の念を大事にし、さらにくるみんなプラス認定等をはじめ社員が安心して

令和8年度方針

変化を恐れぬ挑戦で新市場を切り拓く

拓南製作所 代表取締役社長 奥平 勉

我々業界を取り巻く経営環境は、大きな転換期を迎えています。資材価格の高止まりやエネルギーコストの変動、人手不足の深刻化など依然として厳しい状況が続いています。一方で、インフラ更新や都市再開発、国土強靱化といった社会的需要は確実に存在しています。こうした環境変化を単なる脅威として捉えるのではなく、新たな機会として前向きに捉え、ESG経営を軸に事業を展開していくことが重要であると考えています。

和7年の鉄骨需要が低調で、厳しい状況となりました。しかし、これまで継続して取り組んできた宮古島・石垣島への営業活動が成果を上げ、離島案件の受注増加が業績に大きく貢献しています。フォーミング部門につき

あると捉え、挑戦を通じて新たな市場と価値の創造に取り組んでまいります。また、新規事業としてSIMデッキの本格製造を2月に開始しました。将来の主力事業へと育てるべく技術の確立、品質の安定、受注拡大に取り組めます。

拓南製鐵への仕向け強化を進め、拓南製鐵への仕向け強化を実現してまいりました。昨今は不確実性と複雑性が増し、変化の激しい時代にあります。このような環境下において、当社の経営理念を具現化するためには、社会および顧客が直面する課題を的確に把握し、解決していくことが不可欠です。横断的かつ戦略的に専門性を集積し総合力の多角化を図り、要因やプロセスをしっかりと分析・検証できる解決力を強化し、拓伸会内事業連携を図ります。

防錆事業所においては、亜鉛価格の高止まりが続く中、生産数量は前年度並みを確保したものの収益面では厳しい状況となりました。今後は、リン酸亜鉛処理や防錆塗装を強化し適正な価格転嫁を進め収益改善に取り組んでまいります。

さらに、拓南グループのマーケティング推進室を軸に連携を強化し、グループ製品・サービスを活用した複合提案型営業を推進することで新たな販路拡大と付加価値の創出を図ってまいります。そして、安全はすべてに優先します。過去の災害を風化させることなくリスクアセスメントを継続し、危険要因の削減に取り組めます。指差呼称など安全基本行動を職場文化として定着させ、「ゼロ災害1000日」の達成を目指します。



こうした状況を踏まえ、令和8年度の年度方針を「変化を恐れぬ挑戦で新市場を切り拓く」といたしました。変化の中こそ成長の機会が

要とされ続けられるよう総力を挙げて取り組んでいく所存であります。お客様・協力企業・拓南グループの皆様には、本年度もより一層のご指導ご協力をお願い致します。

V3達成 「健康経営優良法人」

拓伸会会員企業全8社 認定



3年連続「健康経営優良法人」達成。拓伸会の全8社(拓伸本社、拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所、西原グリーンセンター、拓伸商事大阪、拓伸商事福岡、薩南物産)は3月9日、日本健康会議から「健康経営優良法人2026(中小規模法人部門)」の認定を受けた。V3の快挙となった。(本社を除く県内4社はネクストプライト1000付与)

新年度から安全統括室長を兼務する拓南本社の長嶺巧専務は「グループ8社が3年連続で優良法人認定を受けたのは、健康経営を地道に取り組んできた成果だと思います。今後も、健康の改善や増進に関する情報や活動を共有し、従業員が心身ともに健康を維持・向上するよう、取り組んでまいります」とコメントした。(拓伸会経営計画発表会の直前に撮影)

令和8年度方針 原点回帰

安全で楽しい施設の提供でお客様を元気に

西原グリーンセンター 専務取締役 外間一成

世界はロシアのウクライナ侵攻を発端とした国際紛争に始まり、その他の地域でも隣国間で自国の主張を続け紛争の長期化によって経済停滞が続き、日本にも大きな影響を及ぼしています。

争に始まり、その他の地域でも隣国間で自国の主張を続け紛争の長期化によって経済停滞が続き、日本にも大きな影響を及ぼしています。昨年の10月には日本初の女性内閣総理大臣が誕生し、経済安全保障や責任ある積極的財政を柱に強い経済への構築が期待されますが、国民の生活環境は依然として物価高が続き好転が待たれる所です。

このような厳しい経営環境の中、西原グリーンセンターでは昨年10月末日を以つて西原センターサービステーションを閉所致しました。TSUTAYA、auショップの閉店に続く不採算事業を整理し、本来の主力事業であるゴルフ練習場とシヨートコースに注力していく所存であります。

令和7年度の業績につきましては、先程申し上げた西原SSの閉所もあり売上高が計画の未達となっております。利益も確保できない状況になってしまいました。ゴルフ事業部でも業績を分析した結果、上半期の9月



令和8年度方針

激変の時代 正確な情報把握で迅速に対応

拓伸商事(大阪) 代表取締役社長 大城秀政

ご安全に。
昨年は大阪にて半年間、大阪・関西万博が開催されました。

た。始まってみれば入場の諸手続きの難しさや、大行列の発生、電車のトラブルなど来場者が少なく成功裏に終わるのかなど批判的な意見もありましたが、進むにつれ諸改善や暑さ対策などに加え、花火など数多くの催し物やミヤクミヤク人気に支えられ、最後は入りきれないほどの盛況ぶりです。私たちが大阪在住の企業として誇りに思います。

一方ロシアのウクライナ侵攻から、アメリカ・イスラエルによるイラン侵攻や台湾有事発言から端を発した日本に対し、中国から日本の渡航自粛から希少金属や希土類などのレアアース輸出制限など日中の緊張関係は増々エスカレートしています。

今期の年度方針は「激変の時代 正確な情報把握で迅速に対応」と定めました。世界各地で起きている紛争により国際秩序が不安定化する中、資材供給の停滞をさせることが無いよう、正確な情報を迅速に捉え対応に努めます。引き続き、海外取引の商材は仕入れのソースを増

まではレンジにおける来場客数は前年比97・2%に減少、シヨートコースでは83・1%まで減少致しました。夏の猛暑の影響やゴルフ練習場を取り巻くさまざまな状況の中で、お客様に来場していただくためのイベントを積極的に実施し、レンジの人工芝の張り替えやシヨートコースの樹木伐採、ティーグラウンドの整備など気持ち良く練習していただくことを念頭に施設づくりを進め、年度末には前年比レンジで98・5%、シヨートコースでも98・0%のお客様が来場いただいております。令和8年度の来場客数はレンジで17万5千人、シヨートコースでも4万4千人を目標に掲げ、通年で大切にしたいです。

同士の自由闊達なコミュニケーションで改善できるようになってきました。最近では社員各人の会話の中での成長が目に見えて感じ取れるのが、何より頼もしく思います。その成長を会社の成長につなげていければと思っております。

結びに、ESG経営を基軸にガバナンスを強化し、ますます激変の時代に突入する中、拓伸会グループの循環型社会実現に向けた事業活動が継続していただけるよう拓伸会県外3社も協力して高品質な商品やサービスの迅速な提供で各地域社会経済に貢献し続けてまいります。今後も拓伸会各位のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

《3頁より》
令和8年度方針

幅広いシェアで事業拡大・売上確保

拓伸商事(福岡) 専務取締役 安東秀徳



昨年度の沖縄県内はプロジェクトや工事発注が遅れる状況が散見され、さらに大型案件のみならず、小規模案件などの需要も低迷する中、県外からのダンピング材による市況の混乱が大きく影響し、非常に難しく前年度に比べ、減収減益となりました。今年度は「幅広いシェアで事業拡大・売上確保」という年度方針を基に、これまで見落としてきた商品や工法及び商圏の開拓を推進します。沖縄県内市場においては、既存取引先との関係をこれまで以上に深め、安定的に継続する関係を構築していきます。

令和8年度方針

幅広いシェアで事業拡大・収益確保

薩南物産 専務取締役 田邊雄二



昨年度は、10人の新しい仲間を加え組織を再編成し、ギリチン設備の車両の更新に伴い動線を考慮した構内レイアウトの変更も行いました。しかし資材高・人手不足などによる建設費の高騰により建設計画の延期や縮小、木造住宅の新築減少など厳しい経営環境でした。このような経営環境に対応するため、今年度の年度方針を「幅広いシェアで事業拡大・収益確保」とし、製品課では、拓伸会で生産している商品をもとより、付加価値を施した加工商品の販売も拓伸商事福岡と逐一情報を共有・連携して拡販に努めます。また拓伸会マーケティング推進室と連携し情報の精度を高めます。原料課では、更新した設備・車両を活用し仕入れの強化を行い、毎月鉄屑3,000トン以上、非鉄100トン以上へ向け、解体物件や発生元へのアプローチを強化し、非鉄と高付加価値化による質の良い鉄スクラップの取り扱い増加にも注力します。また、最優先である安全衛生面では、指差呼称の徹底・

各取引商社と連携できる体制を整えます。遅れていた新システムの導入が完了したことで、安定的な運用での営業支援が出来るよう事務管理体制が期待できます。

その他にも2030年達成目標のSDGs宣言も2年目を迎えます。そして3年目となる健康経営優良法人認定も同様に社会貢献できる会社として認知されるよう努めます。拓伸会、協力会社の皆様の一層のご協力、ご指導をよろしくお願いいたします。

ヒヤリハット報告強化とあらゆる危険予知対策を講じ、昨年3月末に鹿児島労働局より認定をいただきました「安全衛生優良企業」を継続できるように社員一丸となつて、より安全で働きやすい職場づくりに取り組んでまいります。

本年もESG経営を基軸として、拓伸会各社とのオンデマンドでの情報共有、社内におけるガバナンスを徹底し、事業拡大に邁進してまいります。結びに、拓伸会・協力会社の皆様には本年度もより一層のご指導・ご協力をお願いいたします。

令和8年度 経営計画



古波津会長のあいさつを傾聴

「伝統を受け継ぐ」と決意表明

令和8年度 拓伸会入社式

*トピック欄に載る名称、人物の肩書などは、記事を史料として活用するため、原則として当日のものとし、ます。

拓伸会は4月1日、拓南製鐵本社2階大会議室で入社式を行った。今年度の新卒新入社員は3社計14人で、内訳は拓南製鐵5人、拓南商事5人、拓南製作所4人。新入社員を代表して與儀力斗氏(製鐵)と宮城鈴氏(商事)が決意表明をし、「70年以上続く拓伸会の伝統をしっかり受け継ぎ、100周年に向けて努力する」と力強くアピールした。拓伸会、拓南本社、拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所の役員約20人が歓迎に駆けつけ、閉会後はグータッチで激励した。(集合写真のキャプションと各抱負は敬称略)

の一覧表。

- 【拓南製鐵】5人
阿波根宏哉氏(沖縄国際大学卒)
山川宗慶氏(福井工業大学卒)
與儀力斗氏(沖縄県立芸術大学卒)
- 並里広夢氏(北部農林高校卒)
野原朝行氏(仙台育英学園通信課程)

式典ではまず、拓伸会を代表して古波津昇会長が歓迎のあいさつをした。古波津会長はまず、拓伸会が昭和28年にスタートし、製造業を中心に8社で構成するグループであることを紹介し、「各社が扱っているさまざまな商品をまず、理解してほしい。製品の知識、生産工程などひとつひとつ、頭に入れていってほしい」と強調した。さらに、安全衛生について、その心掛けがいかに大切であるかを説いた。そして、「ここに集う14人は、年齢差が多少あるものの、同期の仲間だ。同期の付き合いは定年まで、いや老後にもつながる大切なものだ。相談し合い、助け合い、苦しみや喜びを分かち合う仲間になってほしい」とアドバイスした。

- 【拓南商事】5人
宮城 鈴氏(沖縄国際大学卒)
又吉駿磨氏(沖縄国際大学卒)
平川秀哉氏(沖縄国際大学卒)
宮城藤悟氏(北部農林高校卒)
上原功大氏(北部農林高校卒)
- 【拓南製作所】4人
伊藝知大氏(沖縄国際大学卒)
玉木みや氏(沖縄国際大学卒)
島本琉風氏(琉球大学卒)*
4月13日入社
金城陽風氏(中部農林高校卒)

続いて、新入社員の自己紹介が行われた。3社の新卒新入社員は次の通り。5頁に、式典前後にコメントしてもらった抱負をした。

希望を持って100年企業へ

拓南製鐵社長 八木 実

皆さんの入社を歓迎いたします。先日のオリンピックで活躍した選手たちはインタビュの際、周りの人々のサポートのおかげだと感謝の言葉を述べていた。同じ世代の皆さんも、見える所、見えない所でそれぞれ努力をし、家族や指導者など周りの支えがあつて、ここに今いるのだと思う。私も、そんな皆さんの力を発揮できるように努めたい。皆さんも、上司、



(後列左より)野原朝行(製鐵)、阿波根宏哉(製鐵)、與儀力斗(製鐵)、並里広夢(製鐵)、宮城藤悟(商事)、上原功大(商事)、又吉駿磨(商事)
(前列左より)山川宗慶(製鐵)、平川秀哉(商事)、宮城鈴(商事)、玉木みや(製作所)、金城陽風(製作所)、伊藝知大(製作所)

決意表明をする與儀氏(右)と宮城氏

や先輩に素直に接してほしい。今年、当社が創立70周年、拓伸会が72年を迎える。希望を持って100年企業を共に目指していこう。

職場の雰囲気味わおう

拓南商事社長 川上哲史
皆さんは今、緊張している。皆さんはまず、職場に慣れることが最優先だ。リラック

拓南製鐵	
阿波根宏哉	不安なことも多いですが、少しでも会社に馴染めるように頑張ります。
山川宗慶	鉄を通して沖縄に貢献していきたいです。
與儀力斗	拓伸会の一員として、1年目から頑張ります。よろしくお願ひします。
並里広夢	入社1年目なのでわからないこともあると思いますが、よろしくお願ひします。
野原朝行	勤勉に努めていきます。
拓南商事	
宮城 鈴	入社1年目として、まずは仕事を覚えることから努力し、拓伸会の一員として、元気に努めてまいります。
又吉駿磨	幅広い年代の方々と交流し、情報を通じて知識を深め、拓南グループに尽力してまいります。
平川秀哉	1日でも早く業務を覚えて会社に貢献できるように頑張ります。
宮城藤悟	社会人1年目なので会社に貢献できるように頑張ります。
上原功大	前向きに何事にも挑戦する姿勢で頑張ります。皆様とお仕事できるのを楽しみにしています。よろしくお願ひします。
拓南製作所	
伊藝知大	1年目からしっかり仕事を覚えて会社に貢献できるよう頑張ります。
玉木みや	至らないところが多くありますが懸命に学び会社に貢献できるよう努めたいと思います。よろしくお願ひ致します。
島本琉風	これから一生懸命頑張りますので 皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。
金城陽風	勤勉に頑張ります。

変革をもたらす存在に

拓南グループは創業72年になるが、企業が70年継続する確率は0.7%、100年だとわずか0.02%だとい

スしてほしい。ガンガン仕事をやる前に、職場の雰囲気を味わうことから始めてほしい。そのためには、拓伸会などの職場でも交わされている「ご安全に」のあいさつを自分のものにし、先輩たちとの会話の糸口にするなど、職場になじむよう心がけてほしい。その後は、見る力、聞く力を育ててほしい。それは、拓伸会の行動規範にも載っている。コツコツと真剣に取り組めば必ずできる。以上をまず、心がけ、とてほしい。あえず、入社1年目を乗り切

拓南製作所社長 奥平 勉



安全祈願祭(拓伸会関係者と富士電機関係者が合同で伏見稲荷神社、産業の宮へ拝礼)

受変電設備更新工事 起工式

電気の心臓部をリニューアル 拓南製鐵

拓南製鐵は、2028年5月完成を目指す受変電設備更新工事の安全祈願祭、起工式を3月30日、拓南製鐵構内で行った。拓南製鐵をはじめ拓伸会関係者、ならびに、富士電機、富士電機E&C、日新電機、金城電気工事など設計・施工関係者合わせて42人が出席した。

続いて、新入社員が全員起

立し、與儀力斗氏(製鐵)と宮城鈴氏(商事)が代表して決意表明を行った。「拓伸会の一員として迎えていただき、大変うれしく思っている。私たちは、これから仕事を通じて多くのことを学び、先輩方のご指導やご助言をたまわりながら、1日でも早く成長し、貢献できるように努めたい。また、70年以上続く拓伸会の伝統をしっかり受け継ぎ、100周年に向けて努力する。」式典は、拓南本社の比嘉秀親常務による社訓唱和で締めくくられた。その後、歓迎に駆けつけた拓伸会各社役員とフレッシュマンたちの間でグータッチが交わされた。繁彦氏がヘルメットを被り、スコップを手にして務めた。玉串奉奠は、古波津会長、八木社長、富士電機パワエレ営業本部沖繩支社長の清家毅氏、富士電機E&C電気設備事業本部産業インフラ事業部副事業部長の長濱嘉行氏、拓伸商事の大城秀政社長、拓南製作所の奥平勉社長、拓南製鐵の古波津良和執行役員事業所長付部長が順次行った。滞りなく起工式が行われた後、隣接会場で直会式が行われた。新垣神職の神酒拝戴の後、施主、拓伸会会長、施工業者代表がそれぞれあいさつをした。



拓伸会幹部たちがグータッチで激励

《5頁より》
□施工あいさつ

県民注目の工事になる

拓南製鐵社長 八木 実



弊社は今年、この工場へ移転して31年、創業70周年を迎える。まさに100年企業に向けたスタートの年に、電気炉メーカーにとつて心臓部にあたる受変電設備の更新工事が始まる。県民も注目する工事になるだろう。無災害、安全第一でお願いしたい。

□会長あいさつ

電力は精度向上の源

拓南製鐵会長 古波津 昇



鉄筋の需要は、業界全体の流れでだいぶ変わってきた。

□施工業者代表あいさつ

『拓鐵興琉』に貢献したい

富士電機ハウエリ事業本部産業ソリューション統括部長 笠井健司氏



大変重要な受変電設備の更新を仰せつかり、まことに

光栄に存じます。施工に関しては、安全第一を最優先事項とし、無事故、無災害をお約束します。『拓鐵興琉』の企業理念に少しでも貢献できるように全力を傾けてまいります。



(左から)伊能氏、古波津会長、八木社長、新垣神職



拓南製鐵(株)本社

受変電棟

拓南製鐵、拓南商事 準グランプリに

準グランプリに

沖縄県がんじゅつさびら表彰



拓南製鐵と拓南商事が準グランプリの栄冠。沖縄県、経済団体、保健医療・福祉団体、学校、労働団体、マスコミ、市民団体など約70

団体で構成する「健康長寿おきなわ復活県民会議」は3月20日、県政の重要課題である「健康長寿おきなわ復活プロジェクト」の一環として令

和7年度(第10回)沖縄県健康づくり表彰(がんじゅつさびら表彰)を行った。表彰式は、沖縄県医師会館(南風原町)で開催されたうりずんフ、

3月

建築工法の変化もある。鉄筋が、強度があつて細くなつてきている。そのような、かなり精度が高いものを削つていくためには、その制御の源である電力に期待がかかる。いままで以上に細かい制御が必要になってくるからだ。更新工事と言っているが、完成すれば、この地域で、沖縄電力の発電所を除けば一番大きな電気設備となる。富士電機さんとともに、見学者がわざわざ訪れるような受変電設備を完成させたい。

各あいさつの後、拓南商事の川上哲史社長が乾杯の音頭をとった。川上社長は、1994年(工場竣工の前年)に稼働した現在の受変電設備などに

ついて振り返つた後、「新たな更新が工場の発展、拓伸会のさらなる発展につながる」と期待する」と述べて、乾杯の発声を行った。直会式はそのまま、和やかな談笑に移つた。

安全祈願祭の司会は、拓南製鐵製造技術本部技術部の備瀬知亮課長、起工式、直会式の司会は、拓南製作所管理部の知念直成課長が務めた。



直会式で川上社長が乾杯の音頭

拓南製鐵の受変電設備更新について、担当者である執行役員事業所長付部長の古波津良和氏に寄稿してもらった。

更新工事は3カ年の長丁場

拓南製鐵執行役員 古波津良和

ご安全に。

当社の受変電設備は、沖縄電力より特別高圧6万6000ボルトで電気を受電し、各工場に必要な電圧へ変電し、電気炉設備や製鋼・圧延工場、その他には拓南商事、沖縄コーテックへも送電する設備です。わが中部事業所のみならず、拓伸会関係会社を含めた電気の心臓部であります。中部事業所は、旧浦添工場から95年に移転し、今年で31年目を迎えます。受変

更新にあたっては、それに関わる停電日数をできるだけ短縮するよう、空きスペースを活用しながら、事前工事で設置から試験までを終了させておき、最終的な切り換え時のみ停電を実施する方法にて、停電日数の短縮を図ります。

また、今回の更新にあたっては、製鋼工場電気炉操業時に発生するフリッカ値をこれまで以上に改善したく、既設のサイリスタを活用した他励式から高速スイッチングを有した改善性能が高いIGBTを活用した自動式へ増強し、沖縄電力と協定を結んでいるフリッカ規制値を安定的に制御できるようにします。

更新工事は通算3カ年の長丁場で、今年5月から始まり、最終完成は2028年5月の予定です。毎年5月のゴールデンウィーク明けから工場の定修も含め数週間操業を停止し、毎年数日間工場の全停電を行ない、新設備への切り換え作業を行います。

基礎工事・建屋新設工事などにおいては、拓南製作所の協力をいただきます。3月30日に安全祈願祭を終え、3カ年という長丁場の更新工事が本格的に開始されますが、まずは工事が無事に安全に終わるように進めてまいります。



エスタ(沖縄県・沖縄県医師会共催)会場で行われた。拓南製鐵と拓南商事は「事

業所部門」で、社員の健康づくりに関する取り組みが評価され、準グランプリ(2社)を占めた。グランプリは沖縄行政システム。表彰式には、八木実社長、川上哲史社長、担当役員など10人が参加した。

一人一人が心と体を健康に

拓南製鐵社長 八木 実

拓南製鐵では、コロナ禍で世の中が混乱状態の中、2021年「うちなー健康経営宣言」、24、25年に「健康経営優良法人認定」を取得しました。経営する上で社員の安全・健康を最優先と位置付け、社員一人一人が心と体を健康に保ち、誇りを持って安全に働ける職場づくりを目指しています。

① 具体的な取り組み内容は、次の通りです。

② 運動習慣づくりでは、レクリエーション大会や健康セミナー、歩数チャレンジなどを実施。福利厚生の一環として西原グリーンセンターでのゴルフレンジ・ショートコースを利用した初心者向けゴルフ教室では、女子社員の

参加も増加中。

全社員を巻き込んだ成果

拓南商事社長 川上哲史

この度は「令和7年度沖縄県がんじゅうさびら表彰」において健康づくり「事業所部門」準グランプリの賞を賜り、光栄であり喜びに包まれております。

これもひとえに、拓伸会の健康経営のもと弊社ヘルス委員会が中心となり、健康ゴルフ、食育SAT、健康講

柱大組立仮治具 設置完了

拓南製作所



2月

拓南製作所は2月24、25日、鐵構事業所構内で柱大組立仮治具(MA1000A)の設置を完了した。柱大組立仮治具の導入は、鉄骨柱組み立ての精度および仮付け速度の改善を目的としている。担当者である鐵構事業所鐵構部の下門健一郎長は、「この設備の設置により、仮組時間の大幅な短縮と品質向上に加え、クレーン作業減少に伴う安全性の向上が見込まれます。今後は、MA1000Aを最大限に活用し、さらなる生産性向上に努めます」と抱負を述べた。

西原GCが新商品を開発 ゴルフを通してPDCAを学ぶ

4月

西原グリーンセンターは4月現在、「ゴルフを通してPDCAを体感で学ぶ研修」の開発に取り組んでいる。新機軸の商品として打ち出す予定で、すでにモニターングを重ねている。そこで、翁長辰伍専務に寄稿してもらい、研修のプロフィールなどを紹介してもらった。

「知っている」から「回せる」へ

西原グリーンセンター専務 翁長辰伍

日々の業務において、「PDCAを回すことの重要性」は広く認識されています。

しかし、現場では、計画は立てるものの実行が続かない、振り返りがあまいままに繰り返すなど、必ずしも十分に機能しているとは言えない場面も見受けられます。これは個人の能力の問題というよりも、PDCAを実践として体験する機会が少ないことに一因があると考えられています。

多くの研修は理解を深めることに主眼が置かれており、「分かったつもり」から「実際に回せる状態」へ至るには距離があるのが実情です。こうした背景を踏まえ、



本取り組みでは、PDCAを「理解する」状態から「実際に回せる」状態へと変えることを目的としています。

《7頁より》

実践的に体験できるように

本研修は、西原グリーンセンターの環境を活用し、ゴルフというフィールドを通じてPDCAを実践的に体験できるように設計しています。

ルールとしては、2人1組でチームを組み、ボールを交互に打っていきます。チームでどこに・何の目的で打つかという作戦を立て(Plan)、ラウンドで実行する(DO)、上手くいった・いかな



いなどの結果を振り返り(Check)、改善して再挑戦する(Act)という一連の流れを繰り返します。

また、レンジでの個人レッスンによる個人PDCAと、コースでの意思決定・連携によるチームPDCAを組み合わせて、個人と組織双方の改善力を実践で学べるという構造としました。

新たな価値を提供

また、主目的はPDCAの体得ですが、副次的に健康経営の観点での身体活動の促



進、チームビルディング、コミュニケーションの活性化といった効果も期待されます。

さらには、施設価値の向上という側面も持っており、平日午後は集客余地があると同時に、企業にとつての研修を実施しやすい時間帯でもあるので、これまで個人利用が中心であった施設を「企業の人材育成の場」として活用することで、新たな価値提供とビジネス機会につなげていきます。単なる空き時間の活用ではなく、施設特性と企業ニーズを掛け合わせた取り組みとして位置づけていきます。



初の職長安全衛生教育実施

化学物質RA教育も 薩南物産

拓伸会の鹿児島島の拠点・薩南物産は3月12、13日、初の職長安全衛生教育を実施した。あわせて、化学物質のリスクアセスメント(RA)教育も行った。その経緯を朝山由紀子主任に寄稿してもらった。受講者7人、講師の感想も寄せてもらった。(敬称略)

グループワークで意見交換

営業統括部主任 朝山由紀子

薩南物産は3月12、13日の「職長安全衛生教育および化学物質のリスクアセスメント

すでに一定の手応え

本研修は、従来の座学研修を置き換えるものではなく、知識を「行動に結びつけるための補完的な施策」として位置づけています。

すでに、グループ若手社員や近隣の南石開発様での試験的な実施。各写真参照。を通じて一定の手応えを得ており、今後も現場での再現性を高めるべくわれわれ自身もPDCAを回し、改善を重ねていく所存です。



ト教育」を拓南製鐵鹿児島営業所内の会議室で実施しました。

この教育は、厚生労働省の「安全衛生教育推進要綱」に基づくものです。要綱では、おおむね5年ごとに職長能力向上教育を実施することが推奨されています。しかし、鹿児島県内で同教育を実施する機関がなかったため、拓南本社安全統括室に相談し、講師資格を有する長濱直次安全統括室長に講師を務めていただくことになりました。化学物質のリスクアセスメント教育も併せてお願いしました。

薩南物産各課の現場作業を管理する7人が集まり、受講するなかで、グループワークを通してお互いの意見交換ができ、職長の役割や化学物質管理の重要性を再認識し、安全衛生への取り組みを考えるよい機会となりました。

薩南物産各課の現場作業を管理する7人が集まり、受講するなかで、グループワークを通してお互いの意見交換ができ、職長の役割や化学物質管理の重要性を再認識し、安全衛生への取り組みを考えるよい機会となりました。

〈受講者の感想〉

保護具着用の徹底を

製品課課長代理 久保雅史

職場での先取りの安全管理として、部下の健康状況の把握に努めることや部下に敬意をもって接することの大切さを学んだ。化学物質管

円滑な現場運営に役立てる

原料課課長代理 崎山浩志

職長教育を受講して、安全な作業手順の決め方や指示方法、適切な人員配置、部下への教育方法等を学んだので、これらを生かし、円滑な

クリエイトシンプル活用も

拓南製鐵鹿児島営業所課長代理 日高善幸

職長業務はPDCAが基本であることを常に念頭に置き、日常業務に取り組みたい。化学物質管理では、自律的管理の徹底を目指し、換気や保護具着用を徹底

社内の化学物質を情報共有

営業統括部主任 朝山由紀子

職長は、重要な役割を担っており、職長同士で協力し、業務にあたるのが大切だと感じた。化学物質のリスクアセスメント方法についていきたい。

危険性や有害性を再認識

原料課鉄屑・非鉄班職長代理 大園正太

化学物質管理の教育を受けて、自律的管理の仕組みと職場での実践方法を学んだ。過去の労働災害の事例を

受講者は左から、朝山由紀子主任・久留蕉太郎班長・日高善幸課長代理・久保雅史課長代理、中村英介班長・崎山浩志課長代理・大園正太職長代理

クアセメントを実施して
育のみ受講)

整理整頓の徹底が安全に

原料課鉄屑・非鉄班班長 久留焦太郎

職長教育を通して、整理整頓の徹底が安全につながる
ことや、メンテナンス等の作

八重瀬町から感謝状贈呈

企業版ふるさと納税で 拓南本社

八重瀬町は4月7日、地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)を活用して500万円を寄付した拓南本社に感謝状を贈った。

贈呈式は八重瀬町役場2階応接室で行われ、新垣安弘町長、石川勝弘副町長、新垣正春町議会議長が、拓南本社の古波津昇会長、新垣博史副社長、比嘉秀親常務を迎えた。席上、古波津会長は、あいさつの中で次のように述べた。

「八重瀬町の発展に向けた取り組みにエールを送る意味



(左から)石川副町長、新垣町議会議長、新垣町長、古波津会長、新垣副社長、比嘉常務

も含めて寄付させていただいた。私も、八重瀬町の血筋100パーセントを受け継いでいる経営者として、他の経営者の皆様と同様、八重瀬町で何かできないかと考えてきた。県経済界では現在、北部中心だった振興発展を南部にもシフトしているという動きがある。その一端にいる者として行政を後押ししていきたい」

新垣町長は「古波津会長をはじめ、拓南本社の皆さまの八重瀬町に対する期待をしっかりと受け止めながら頑張っていきたい」と謝辞を述べ、古波津会長へ感謝状を贈呈した。



「沖繩タイムス」4月16日付

の保護員着用徹底とクリエイトシンプルを使ったりス
クアセメントを実施して
いきたい。

「作業員の心の安全」も

原料課車両班班長 中村英介

職長教育を受講し、職長の役割として「作業の安全」とともに「作業員の心の安全」も守る重要性を学んだ。今後は、「なぜこの作業が必要か」という理由や背景も伝えることで作業に対して納得感を高めてもらい、安全作業の徹底に努めていきたい。(職長教育のみ受講)

4月

現場リーダーの姿勢が肝要

拓南本社安全統括室室長 長濱直次

現場リーダーは、安全作業を進める要キーパーソンです。現場リーダーは安全作業の重要性を部下に義務的に説明するのではなく、部下が納得できるように言葉と態度で示すことが大切です。現場リーダーの姿勢が部下全員の前向きな安全作業、品質確保、生産性につながります。また「難しい」とアレルギー反応も見られる化学物質リ

現場リーダーは、安全作業を進める要キーパーソンです。現場リーダーは安全作業の重要性を部下に義務的に説明するのではなく、部下が納得できるように言葉と態度で示すことが大切です。現場リーダーの姿勢が部下全員の前向きな安全作業、品質確保、生産性につながります。また「難しい」とアレルギー反応も見られる化学物質リ

潮平産業医が退任

21年間務める

拓南製作所

拓南製作所管理部の知念直成次長より、下記の一報が入りました。「当社の産業医である潮平優先生が3月19日をもって退任しました。21年間ご尽力いただいた潮平先生へ、これまでのご功績に感謝の意を表し、感謝状および花束を贈呈いたしました。在任中は、従業員の健康管理や職場環境の向上に多大なる御指導をいただきました」潮平氏は、沖繩市胡



2026年
3月1日~4月30日
*一部、未紹介分も掲載しています。

人・事・往・来・

緊迫の本土復帰

黒島 善茂

来年、本土に復帰して55年を迎える。もうその頃に在籍していた社員は概ね退職されているであろうから、今回は復帰前から浦添工場へ移転するまでを、現場からの一端として書くことにする。

1965年8月、日本の

総理大臣(佐藤栄作)が初めて沖縄を訪れ、那覇空港で「沖縄の祖国復帰が実現されない限り戦後は終らない」と述べられた。しかし、夜の歓迎会では「施政権の返還は今論ずる段階にない。実現するまで本土との格差を改善し、住民の福祉

の向上を図るためできる限りの援助を行う」と。

これを受けて県内は、近々復帰の夢が叶う(歓迎派)、援助金は糊塗的だ(抗議派)、基地は全面返還せよ(阻止派)と三者三様で騒然となった。

経済界なかならずく製造業は諸々の難題があり、その対策が盛んに議論されていた。

こうした中、68年、浦添に共栄製鋼(75年閉鎖)が8トン(公称10トン)炉を設置。スムーズに立ち上げるためであろう拓南製鐵の製鋼部から炉前の職長と班長(2人)、造塊班長(1人)が引き抜かれた。その煽りを受けて、脱酸不良などの不良品が頻発した。現場を預かる者としてさすがに堪えた。

窮余の一策として社の休憩室に寝泊まりし、責任者の育成を急いだ。2週間後、なんとか選任することができ、不良品をかなり抑制することができた。

こうした問題事象ばかりでなく復帰すれば本土の同業他社と競争になる。現有の2炉体制では太刀打ちで

きない。よって炉を大型にして生産性の向上を図る必要がある。その対応策として20トン(公表15トン)にリプレスする方針が決定された。

創業者は「敷地が狭隘である。どうすれば効率よく操業できるか炉の型式を含めて起案書を提出するように」と言われた。

1. 炉の型式はガントリー式とする(現状のスイング式では油圧設備のピットを掘るのに費用がかかる)
 2. 屋内に少なくとも2週間分の原材料ストックスペースを確保する
 3. インゴットは現在の120kgから250kgとする
 4. 造塊場は旧工場を使用するため壁を撤去して一体化する
- 上記の事項をベースとして起案書と工場レイアウト図を作成し、提出した。若干の修正があったものの承認され、70年3月、無事に操業にこぎつけることができた。

(拓伸会 元名誉会長)

拓南余話 27



20トン炉リプレス工場建設現場※正面が旧製鋼工場

編集後記

都合で取材に参上できないとき、AIで音声文字におこしたデータを提供してくれるケースがあります。大いに助かっています。その度に、AI技術のレベルを実感し、たいしたものだと感じます。その一方で、ある大学の教員から「若者たちの調査力や文章力に悪い影響が出ている」というAIへの苦言も思いつきます。楽だ、楽だ、と言いつつ、プロセスを省く文化を私たちは着々と築いているようです。

(鈴木)